

今日から未来へ



東日本大震災派遣隊・調査隊 2011～2018

“義を見てせざるは勇無きなり”

“継続は力なり”

“最大の敵は無関心”



活動記録

東日本大震災災害支援チーム

2011年3月19日～24日 第1次災害支援隊
2011年4月12日～14日 被災地調査隊



医師会災害医療チーム (JMAT) 参加 岩手県大槌町 大槌高校救護所

2011年5月3日～7日 第2次派遣隊
2011年5月11日～13日 第3次派遣隊
2011年5月13日～17日 第4次派遣隊
2011年5月17日～20日 第5次派遣隊
2011年5月20日～24日 第6次派遣隊
2011年5月24日～29日 第7次派遣隊
2011年5月29日～6月2日 第8次派遣隊
2011年6月2日～5日 第9次派遣隊
2011年6月5日～8日 第10次派遣隊



大槌町調査隊

2012年1月11日 第1次調査隊
2012年9月6日～8日 第2次調査隊
2013年7月9日 第3次調査隊
2013年12月18日～19日 第4次調査隊
2014年12月18日 第5次調査隊
2015年7月31日～8月1日 第6次調査隊
2016年1月14日～15日 第7次調査隊
2016年12月20日 第8次調査隊
2018年1月29日 第9次調査隊



派遣隊・調査隊メンバー

中嶋 優太 第1次災害支援隊

震災から数日、車から溢れるほどの物資とともに先発隊として出発した朝を思い出します。情報が不確かな状況で、いきなり目に飛び込んできた光景と衝撃は今も忘れることができません。何が支援できるかを模索し、現地の方や多方面からの支援者と協力しながら活動しました。日常では到底し得ない貴重な体験をさせていただきました。今後のますます復興と、住民のご健康をお祈り申し上げます。

早川 洋輔 第1次災害支援隊

一次支援隊での思いを私は忘れない。



藤田 雄太 第1次災害支援隊

最大の敵は無関心、という言葉をお忘れずに
これからも復興のお手伝いが出来ればと思います。

村上 康代 被災地調査隊

失ったものは大きいですが、たくさん大切な事を学びました。
これを生かしていくことが私たちの使命と心に留めていきたいと思っています。

小野 久美子 被災地調査隊

一人の力は小さいけれど、みんなで行えば大きな力になります。
これからも復興のため応援していきます。

原田 生知 第2次派遣隊

大槌支援活動にご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。
これからも大槌町の復興をささやかながら応援していきたいと思っています。

西村 宜朗 第2次派遣隊

失ってもう戻らないものも多くあったかと思います。しかし、小さな芽は着実に芽生え、根ざしています。本当の笑顔であふれる町になりますように、新生大槌町をこれからも応援します！！

石崎 仁 第3次派遣隊

私も岩手県生まれの者としてあの衝撃は忘れません。
そして、皆さんの力強さを誇りに思います。



肥後 佳範 第3次派遣隊

あの時できた「絆」をこれからも大切にしていきます。

長尾 勇志 第4次派遣隊

あの時の絆、教訓を今後の力に。



石山 郁弥 第5次派遣隊

災害支援活動から7年が経とうとしていますが支援活動からたくさんのことを学び、人生に活かしています。当社での支援活動は今回で終了になりますが個人的にも支援は続けていこうと思います。

本内 孝典 第6次派遣隊

7年経過したいまでも様々なお苦勞あると思いますが、昔以上に素敵なお大槌になることを願っています。

八木橋 郁夫 第6次派遣隊

大きなものを失った悲しみは、決して忘れられないけど、前を向いて歩むことにきっと光が待っています。いつの日か、心の底から穏やかな笑顔が訪れますように。

黒滝 誠浩 第7次派遣隊

大分、復興が進んでいると感じました。しかし、まだまだ手付かずだったり復興途中の部分はあります。遠い地、弘前で応援いたします！！がんばれお大槌！！

武長 進一 第9次派遣隊

子供たちの笑顔は、現地のみならず我々の癒しにもなります。

斉藤 武志 第9次派遣隊

時間というのは怖いもの。時間が過ぎると忘れていくもの。それを忘れないためにも、次世代の子供たちに繋いでいってください。

板澤 雅人 第10次派遣隊

支援隊の一人として現地に赴く機会を与えて下さったことに感謝致します。あの時被災地で起きたことは私個人にとってすべて関係することですので、これからも生涯かかわり続けます。



豊島 広大 第6次調査隊

けっばれ！大槌のみなさん！

赤石 二郎 第6次調査隊

私は大槌町に研修、支援で2回行かせていただきました。特に印象に残っているのが、旧大槌町役場です。役場の庁舎は、私が訪問した時も震災直後のまま、残っていました。テレビなどで見てはいましたが、実際に建物を目の当たりにし、震災当時の凄まじさを感じ、とても胸が痛んだことが今も記憶に残っています。最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただきありがとうございました。

吉田 慎悟 第8次調査隊

「一人はみんなのために。みんなは一人のために」僕もその一人で、君もその一人。
“みんな”の一部。“今、できること”を日々精一杯頑張ろう。

福士 敏 第8次調査隊

少しずつ復興に向かっている町を車で走っている光景がとても記憶に残っています。曲がった鉄柱、瓦礫、重機の音。テレビ越しに見ていた映像を自分の目で見ると復興の難しさを感じた。被災者の気持ちの復興はまだまだできていないという言葉が地震の大きさ、失くしたものの大きさを表していた。とてもいい経験が出来たと思っている。

下山 大希 第9次調査隊

うらんでも、うらみきれない、広い海。これからもなにかあれば応援していきたいです。

板垣 優介 第9次調査隊

最後の訪問に帯同させて頂き、支援活動ができたこと、被災地を自分の目で見れたことはすごくいい経験になりました。今後何かの縁で訪問する事があった際には、復興が進み、変わっていく町並みを見てみたいと思いました。今回のような機会を与えて頂きありがとうございました。そして、7年間訪問・調査に携わった方々、お疲れ様でした。





2011年5月20日大槌高校からの帰り道、私の目から涙があふれ出しました。

津波の被害に、文字通り「言葉を失う」という感覚が身体を去らなかつた。

これから被災された方々へ発する言葉もうまく見つからなければ、自分の気持ちを表現する言葉も見つからなかつた。

大槌高校救護所では、喫煙所がコミュニケーションの場となっていて、喫煙者の私は喫煙所が被災された方々と、話をする場だった。気さくに話かけてくださるおじさん、おばさんのおかげで、言葉を失っていた自分を取り戻すことができた。

救護所の夜もやはり喫煙所へ行くのだが、一人で泣いている人を見かけたりした。

東日本大震災で親戚が石巻で被災していた。救護所から親戚へおじさんから連絡あったが、おばさんとおばあさんが、見つからないと。

もし、自分の家族が被災していたら。もし、1人だけになったら。

でも、喫煙所で会った被災された方々は、前向きに感じられたことを思い出します。

大槌町の未来のために、少しでも力になればいいとはじまった子供達への訪問。青森県弘前市のりんごを食べて元気に育ててほしい、そして大槌の復興へ大きな力へと育ててほしい。大槌町のみなさんから、いろいろなこと経験し学びました。

この経験を生かし、地元地域のみらいのために、今日なにをすべきかを考え、地域発展のために活動していきたい。

多くのご支援を賜った皆様に心から御礼申し上げます。

平成30年3月5日
楸町田アンド町田商会
農事営業部 葛西 豊誠